

UCSF Rheumatology Board Review and Clinical Update 2012に参加して

神田 真聡

2012年8月23-25日にサンフランシスコで開催された、University of California San Francisco Rheumatology Board Review and Clinical Update 2012および、カリフォルニア大学サンフランシスコ校（以下UCSF）付属病院へ出張しましたので報告します。

UCSF Rheumatology Board Review and Clinical Updateは、1992年に始まり、今回でちょうど20回目の開催でした。この講習会はAmerican Board of Internal Medicine (ABIM)主催のリウマチ専門医認定試験のための講習会で、UCSFが開催しています。参加人数は200人強でしたが、日本からの参加者は私一人だけでした。

昨今、本邦の専門医研修も米国式の二階建て制度に習った方式での検討が進められています。米国で医師になるには、4年制大学あるいは医学進学課程で学士号を習得後、メディカルスクールに入学しさらに4年間かけて医学博士号を習得します。この間にUSMLE（医師国家試験）を受験し、合格することが必須となります。卒後はinternship（インターン）を1年間行い、residency（前期研修）となり各科研修（3-5年）を行います。内科は3年間のresidencyの後に、ABIMのinternal medicine board exam（内科認定医試験）に合格するとgeneral internist（内科認定医）となります。その後fellowship（後期研修）となり、リウマチ科では3年間の研修の後に、subspecialty exam（専門医試験）に合格すれば、リウマチ専門医になります。つまり、今回の講習会は私よりも少し年齢層の高い人を対象としたものでした。

当初より海外に単身で乗り込み英語の講習を3日間受けるだけでかなり気負っていました。さらに、参加者も自分より経験があり貫禄のある人たちばかりで、さらに緊張が募りました。また、若

い日本人が珍しかったのか、現地医師に次々と「専門医試験を受けるのか」と聞かれ、余計に心細くなりました。

そんなこちらの緊張はつゆ知らず、講義は朝8時から夕方まで、スターバックスのコーヒーと軽食を片手におこなう、和やかな雰囲気で行われました。演者は著名人もおり、インパクトのある講義とリモコンを用いた参加型問題が多数用意され、最初から最後まで飽きることなく聴講できました。内容は基礎免疫学から膠原病・リウマチ性疾患各論、整形外科まで幅広く行われました。講義内容は想像よりもはるかに分かりやすく、当初の不安はまもなく払拭されました。基本事項のまとめや最新の話題も扱われ、日常診療に役立つことだけでなく、日本と米国の診療の違いを目の当たりにしました。2日目には演者に直接質問し、討論する機会が設けられ、日常診療の疑問について意見交換ができました。討論では、日本の苦悩は米国でもほぼ同じことがわかり、国の違いはそれほど大きくないことを感じ、妙に安心しました。

今回は講習会だけではなく、UCSF Medical Centerの見学をしました。UCSF Medical Centerは全米病院ランキングでトップ10に選ばれる評価の高い病院であり、併設されるBenioff Children's Hospitalは全米ナンバー1の小児病院です。年間外来患者数は830,000人（2011年）、年間入院患者数180,000人、外来通院患者の70%がサンフランシスコ外から通院する中核病院です。リウマチ科の年間通院患者数は6,000人程度とのことでした。新しくきれいな病院であり、ロボット調剤など最新技術も応用されていました。たしかに、技術・設備は素晴らしかったのですが、何より患者満足度が高い理由は、パラメディカルスタッフの対応ではないかと感じました。それはすれ違った一幕にあったように思います。私が院内エレベーターに乗っていたときでした。そこに、

車いすに乗った若い女性を看護助手が護送しながら乗りあわせてきました。女性は足を負傷しているようでした。表情はこわばり、痛みと長時間待たされた疲労が重なったこともあり、不満を口にしていました。日本でもよくある風景だと思いつつも、なんとなく話に耳を傾けていました。看護助手も聞いているだけなのだろうと思っていたのですが、その対応が一味違いました。彼女の不満を笑いに機転の利いたジョークと相手への思いやりのあふれる言葉で、一瞬で雰囲気を変えてしまったのです。女性はエレベーターを降りるときには暗く沈んだ声から、笑顔とともに、明るくはずんだ会話に変わっている姿を見たときに、感銘を受けました。

アフター5は現地生活を楽しんできました。レストランでステーキ・ハンバーガー・パンケーキと日本人にはやや量の多い大盛りのアメリカーンフードを数多く楽しみました。郊外にあるフィッ

シャーマンズワーフまで、ケーブルカーに揺られていき、酵母パンでできた器にたっぷりのクラムチャウダーを満喫しました。また、観光用にレンタカーを借り、霧がかかるフリーウェイを慣れない左ハンドルとマイル表示の速度計に困惑しながらドライブし、ゴールデンゲートブリッジを走り抜けました。さらに、アジサイの咲くロンバート・ストリートも走行しました。アラモ・ストリートではフルハウスの世界に思いを馳せてゆっくりした時間を過ごしました。私にとって、今回は初めての米国本土への上陸でしたが、米国人の英語に翻弄されながらも、貴重な経験と知識を得ることができました。

最後に充実したサンフランシスコ研修の機会を与えてくださった向井先生に改めて厚く御礼申し上げ、このような貴重な経験をできたことに深く感謝いたします。

